

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
長崎歯科衛生士専門学校	昭和59年3月31日	宮口 巖	〒852-8104 長崎県長崎市茂里町3-19 (電話) 095-848-5002				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
一般社団法人 長崎県歯科医師会	平成25年4月1日	宮口 巖	〒852-8104 長崎県長崎市茂里町3-19 (電話) 095-848-5002				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士			
医療	医療専門課程	歯科衛生士科	平成6年文部科学省 告示第84号	-			
学科の目的	歯科衛生士として必要な知識・技術・思いやりの心を修得させ、歯科疾患の予防及び歯科診療の補助に貢献できる歯科衛生士を育成し、地域住民の歯・口腔の健康づくりの向上に寄与することを目的とする。						
認定年月日	平成 年 月 日						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	3110時間	1200時間	50時間	990時間	0	870時間
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
150人	144人	0人	7人	105人	112人		
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日		成績評価		■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 学科試験及び実習並びに平素の成績により評定し、1科目100点満点として、60点以上を合格とする		
長期休み	■学年始：4月1日 ■夏 期：7月21日～8月31日 ■冬 期：12月24日～1月7日 ■春 期：3月20日～4月7日		卒業・進級条件		学業成績、出席状況等について評定の上、校長が教務委員会の議を経て、学科課程を履修した者の進級・卒業を認定する		
学修支援等	■クラス担任制：有 ■個別相談・指導等の対応 学業成績・生活指導において個人面談及び保護者面談を実施し、改善に向けて支援を行う。また、必要に応じてスクールカウンセラーによるカウンセリングも行う		課外活動		■課外活動の種類 無 ■サークル活動：有		
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) 歯科診療所、長崎大病院等 ■就職指導内容 学生の希望及び適性を考慮しながらの個人面談実施、求人情報の提供や助言、求人者との就職面談会開催 ■卒業者数 50 人 ■就職希望者数 49 人 ■就職者数 49 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 98 % ■その他 ・進学者数： 0人 (平成 28年度卒業者に関する平成29年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等) ※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業者に関する平成29年5月1日時点の情報) 資格・検定名   種別   受験者数   合格者数 --- --- --- --- 歯科衛生士免許   ②   50人   50人 歯科臨床検査師士技能検定試験   ③   22人   18人 ※1科目の概には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等		
中途退学の現状	■中途退学者 1名 平成28年4月1日時点において、在学者146名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者145名(平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 クラス担任による個人面談やスクールカウンセラーによるカウンセリングの実施。保護者との連絡・三者面談の実施		■中退率 0.68 %				
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：有 学業・人物ともに優秀な者に対して、より一層の学業成果と意欲の向上を図ることを目的とした本校独自の特待生制度。半期授業料の一部または全額を免除する。(各学年7名まで) ■専門実践教育訓練給付： 給付対象 平成28年度実績 8人						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価： 無						
当該学科のホームページURL	<a href="http://www.ndhs.ac.jp/">http://www.ndhs.ac.jp/</a>						

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)  
最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)  
「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。  
(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について  
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。  
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。  
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。  
※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。  
(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について  
3. 主な学修成果(※3)  
認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針  
 歯科衛生士の育成にあたり、長崎県歯科医師会・長崎県歯科衛生士会・長崎大学病院など各団体との連携を図り、授業内容・実習内容などについて連絡や協議を行い、地域保健・医療・福祉の担い手としての歯科衛生士の育成を目的とする。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け  
 教育課程編成委員会の中で、本校の教育課程に対して提言等を行う。教育課程編成委員からの提言については教務委員会で協議し、次年度以降の教育課程の編成に活かしていく。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
森川弥之	一般社団法人 長崎県歯科医師会 専門学校委員会	平成29年3月1日～平成30年3月31日	①
音山洋介	一般社団法人 長崎県歯科医師会 専門学校委員会	平成29年3月1日～平成30年3月31日	①
浅田 隆	あさだ歯科医院 院長	平成29年3月1日～平成30年3月31日	③
村上秀樹	一般社団法人 長崎県歯科医師会 医療管理委員会	平成29年3月1日～平成30年3月31日	①
角 忠輝	長崎大学歯学部総合歯科臨床教育学	平成29年3月1日～平成30年3月31日	②
山口とき子	一般社団法人 長崎県歯科衛生士会	平成29年3月1日～平成30年3月31日	①
田中靖彦	(医法) タナカ・デンタル・クリニック 院長	平成29年3月1日～平成30年3月31日	
小林泰子	長崎県歯科衛生士専門学校教務主任	平成29年3月1日～平成30年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(開催回数) 年2回 8月と2月（または3月）に開催予定

第1回 平成29年3月15日（水） 19：40～20：50

第2回 平成29年8月 2日（水） 19：35～20：40

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育課程編成委員会の中で、「歯学部学生との協働作業や他分野との連携」に関するカリキュラムを設けてはどうか、という意見が出た。今後そのようなカリキュラム編成ができるような検討とする。また、国家試験対策に関して、グループ学習が効果的ではないかとの意見が出たので取り入れてみることにした。

(別途、以下の資料を提出)

- \* 教育課程編成委員会等の位置付けに係る諸規程
- \* 教育課程編成委員会等の規則
- \* 教育課程編成委員会等の企業等委員の選任理由(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-1
- \* 学校又は法人の組織図
- \* 教育課程編成委員会等の開催記録

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

歯科診療所、病院、保健所高齢者施設などにおいて口腔衛生の改善や口腔機能の維持・向上によって生命維持や健康増進につながることを理解する。またチーム医療における歯科衛生士の役割を学ぶ。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

実習内容については実習手帳記入やレポート提出を行い、実習機関へは評価表の提出を依頼し、その意見を反映させることで実習内容の向上へつなげている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
臨床・臨地実習	各診療科の専門性を活かした実習ができ、病棟における入院患者に必要な口腔ケアを学ぶ。	長崎大学病院
臨床・臨地実習	障害者歯科診療における歯科衛生士の役割や専門的能力を学ぶ。	長崎県口腔保健センター歯科診療所
臨床・臨地実習	地域歯科保健・母子保健における歯科衛生士の役割を学ぶ。	長崎市保健所
臨床・臨地実習	歯科衛生士業務の基本を学び、かつ医療や在宅の場での訪問歯科診療の補助について学ぶ。	角町歯科医院
臨床・臨地実習	高齢者に必要な歯科衛生士業務の他、生活に必要な要介護者の食事介助等の技術を学び、高齢者とのコミュニケーションを図る。	社会福祉法人 長崎厚生福祉団介護老人保健施設 シンフォニー稲佐の森II

連携企業総数26

(別途、以下の資料を提出)

- \* 企業等との連携に関する協定書等や講師契約書(本人の同意書及び企業等の承諾書)等

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教育の質の向上を図り、教育内容を充実させるため、歯科医学に関する学会や一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会、歯科業界関連企業などが開催する研修会に積極的かつ計画的に参加し、専門分野における知識・技術の向上、教員としての資質及び指導力の向上に努める。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

7月31日 「長崎県歯科衛生士卒後学術研修会」対象: 歯科衛生士科教員7名

予防歯科に関するう蝕の原因と予防の知識について、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科福田英輝准教授、渋谷歯科診療所渋谷昌史院長を講師として、研修会を開催し、当学科で指導しているう蝕予防、フッ化物洗口に直接的にかかわる内容であり、専門分野における指導力の向上を図った。また、学内研修会において、当研修参加者より研修内容の共有を図った。

9月3日 「歯科衛生過程研修会」対象: 歯科衛生士科教員2名

歯科衛生業務に関する歯科衛生過程の知識について、東京歯科大学衛生学講座眞木吉信教授を講師として、研修会を開催し、当学科で指導している歯科衛生過程の進め方に直接的にかかわる内容であり、専門分野における指導力の向上を図った。また、学内研修会において、当研修参加者より研修内容の共有を図った。

9月17日～19日 「日本歯科衛生学会」対象: 歯科衛生士科教員3名

予防歯科に関する全身疾患の知識について、にしだわたる糖尿病内科西田互院長を講師として、研修会を開催し、当学科で指導している歯周病と糖尿病との関係に直接的にかかわる内容であり、専門分野における指導力の向上を図った。また、学内研修会において、当研修参加者より研修内容の共有を図った。

また、高齢社会に関する歯科衛生士の役割・知識について、広島大学大学院医歯薬保健学研究院栗原英見教授を講師として、研修会を開催し、当学科で指導している高齢者の口腔ケアとの関係に直接的にかかわる内容であり、専門分野における指導力の向上を図った。また、学内研修会において、当研修参加者より研修内容の共有を図った。

11月19日～20日 「歯科衛生士専任講習会Ⅴ」対象: 歯科衛生士科教員2名

歯科に関する口腔機能の基礎と障害の知識について、大阪大学歯学部顎口腔機能治療部田中信和院長を講師として、研修会を開催し、当学科で指導している話す・食べる・呼吸に関する機能に直接的にかかわる内容であり、専門分野における指導力の向上を図った。また、学内研修会において、当研修参加者より研修内容の共有を図った。

また、訪問歯科診療に関する訪問歯科衛生士活動の知識について、千寿デンタルクリニック岩田敦子歯科衛生士を講師として、研修会を開催し、当学科で指導している在宅歯科医療に直接的にかかわる内容であり、専門分野における指導力の向上を図った。また、学内研修会において、当研修参加者より研修内容の共有を図った。

② 指導力の修得・向上のための研修等

8月22日～26日 「歯科衛生士専任講習会Ⅲ」対象: 歯科衛生士科教員1名

歯科衛生教育に関する教育内容の知識について、厚生労働省医政局歯科保健課山口円裕課長を講師として、研修会を開催し、当学科で指導している保健・医療・福祉に関する制度に直接的にかかわる内容であり、専任教員としての指導力の修得・向上を図った。また、学内研修会において、当研修参加者より研修内容の共有を図った。

12月10日 「歯科衛生士専任講習会Ⅵ」対象: 歯科衛生士科教員1名

高齢者に関する食べる支援の知識について、東京医科歯科大学大学院地域福祉口腔機能管理学分野古屋純一氏を講師として、研修会を開催し、当学科で指導している高齢者への歯科的アプローチに直接的にかかわる内容であり、専任教員としての指導力の修得・向上を図った。また、学内研修会において、当研修参加者より研修内容の共有を図った。

また、高齢者に関する食べる支援の知識について、東京医科歯科大学杉本久美子名誉教授を講師として、研修会を開催し、当学科で指導している摂食・嚥下機能に直接的にかかわる内容であり、専任教員としての指導力の修得・向上を図った。また、学内研修会において、当研修参加者より研修内容の共有を図った。

12月10日～11日 「歯科衛生教育学会」対象: 歯科衛生士科教員3名

歯科衛生教育に関する歯科衛生士専任教員のキャリアデザインの知識について、東京都歯科医師会附属歯科衛生士専門学校金子佳代子氏を講師として、研修会を開催し、当学科での教育問題検討に直接的にかかわる内容であり、専任教員としての指導力の修得・向上を図った。また、学内研修会において、当研修参加者より研修内容の共有を図った。

また、地域包括ケアに関する専門職連携の知識について、千葉大学医学部附属病院総合医療教育センター朝比奈真由美准教授を講師として、研修会を開催し、当学科で指導しているプロフェッショナルリズムに直接的にかかわる内容であり、専任教員としての指導力の修得・向上を図った。また、学内研修会において、当研修参加者より研修内容の共有を図った。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

7月16日 「長崎県歯科衛生士卒後学術研修会」対象: 歯科衛生士科教員7名

予防歯科に関する歯周病の知識について、東京医科歯科大学大学院医歯薬学総合研究科和泉雄一教授を講師として、研修会を開催し、当学科で指導している歯周病予防に直接的にかかわる内容であり、専門分野における指導力の向上を図った。また、学内研修会において、当研修参加者より研修内容の共有を図った。

8月24日 セミナー「秘訣は知識と伝わる技術」対象: 歯科衛生士科教員1名

保健指導に関する伝達の知識について、デンタルNLPトレーナー今野由利氏を講師として、研修会を開催し、当学科で指導しているコミュニケーション術に直接的にかかわる内容であり、専門分野における指導力の向上を図った。また、学内研修会において、当研修参加者より研修内容の共有を図った。

9月16日～17日「日本歯科衛生学会」対象：歯科衛生士科教員1名

歯科に関する地域包括ケアの知識について、千葉県おおぞら診療所川越正平院長を講師として、研修会を開催し、当学科で指導している多職種連携による歯科衛生士の役割に直接的にかかわる内容であり、専門分野における指導力の向上を図った。また、学内研修会において、当研修参加者より研修内容の共有を図った。

また、小児歯科に関する知識について、日本歯科大学田村文誉教授を講師として、研修会を開催し、当学科で指導している子どもの口腔機能に直接的にかかわる内容であり、専門分野における指導力の向上を図った。また、学内研修会において、当研修参加者より研修内容の共有を図った。

11月25日「歯科衛生士専任講習会Ⅵ」対象：歯科衛生士科教員3名

予防歯科に関する歯周病の知識について、大阪大学大学院歯学研究科口腔分子免疫制御学講座予防歯科学天野敦雄教授を講師として、研修会を開催し、当学科で指導しているバイオフィルムの病原性に直接的にかかわる内容であり、専門分野における指導力の向上を図った。また、学内研修会において、当研修参加者より研修内容の共有を図った。

また、予防歯科に関する歯周病の知識について、大阪大学大学院歯学研究科歯周病分子病態学歯周病診断制御学村上伸也教授を講師として、研修会を開催し、当学科で指導している歯周組織再生療法に直接的にかかわる内容であり、専門分野における指導力の向上を図った。また、学内研修会において、当研修参加者より研修内容の共有を図った。

## ②指導力の修得・向上のための研修等

8月21日～25日「歯科衛生士専任講習会Ⅳ」対象：歯科衛生士科教員2名

歯科衛生教育に関する教育内容の知識について、日本歯科大学東京短期大学歯科衛生士学科合場千佳子氏を講師として、研修会を開催し、当学科で指導している専門職としての責務に直接的にかかわる内容であり、専任教員としての指導力の修得・向上を図った。また、学内研修会において、当研修参加者より研修内容の共有を図った。

11月25日～26日「歯科衛生教育学会」対象：歯科衛生士科教員2名

歯科衛生教育に関する研究倫理の知識について、静岡県立大学短期大学部歯科衛生学科仲井雪絵教授を講師として、研修会を開催し、当学科で指導している研究活動・研究倫理に直接的にかかわる内容であり、専任教員としての指導力の修得・向上を図った。また、学内研修会において、当研修参加者より研修内容の共有を図った。

また、長寿社会に関する口腔管理の知識について鹿児島大学長岡英一名誉教授を講師として、研修会を開催し、当学科で指導している口腔機能の維持・向上、歯の喪失防止に直接的にかかわる内容であり、専任教員としての指導力の修得・向上を図った。また、学内研修会において、当研修参加者より研修内容の共有を図った。

1月27日～28日「歯科衛生士の研修指導者・臨床臨床実習者等講習会」対象：歯科衛生士科教員1名

歯科衛生教育に関する研修指導・臨床実地指導の知識について、東京医科歯科大学侯木志朗教授を講師として、研修会を開催し、当学科で指導している研修指導・臨床実地指導に直接的にかかわる内容であり、専任教員としての指導力の修得・向上を図った。また、学内研修会において、当研修参加者より研修内容の共有を図った。

(別途、以下の資料を提出)

- \* 研修等に係る諸規程
- \* 研修等の実績(推薦年度の前年度における実績)
- \* 研修等の計画(推薦年度における計画)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

### (1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会では、自己評価や活動報告等に対してご意見を伺い、学校運営の改善や教育活動に活かしていく。評価内容についてはホームページなどで公開する。

### (2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・学校教育目標
(2)学校運営	学校経営方針
(3)教育活動	教育活動・社会人基礎力
(4)学修成果	教育課程・学習指導・生活指導
(5)学生支援	相談・進路・特待生・奨学金
(6)教育環境	施設・設備の管理・教育環境・情報の管理
(7)学生の受入れ募集	学生募集活動
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の順守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献活動
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

### (3)学校関係者評価結果の活用状況

国家試験合格率、就職率100%はアピールポイントになるので、今後も継続できるよう努力する。また、18歳人口の減少に伴い、学生募集に関して何かPRの方法を考えなくてはならない。また、歯科衛生士不足の状況で早期離職がないよう対策を考える必要がある。このような課題について取り組みたい

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
浅田 隆	あさだ歯科医院 院長	平成29年3月1日～平成30年3月31日	関連業界
村上秀樹	村上歯科医院 院長	平成29年3月1日～平成30年3月31日	関連業界
角 忠輝	長崎大学歯学部総合歯科臨床教育学	平成29年3月1日～平成30年3月31日	関連業界
山口とき子	一般社団法人 長崎県歯科衛生士会	平成29年3月1日～平成30年3月31日	職能団体
山下浩子	一般社団法人 長崎県歯科衛生士会	平成29年3月1日～平成30年3月31日	卒業生
田中桂之助	長崎県信用保証協会	平成29年3月1日～平成30年3月31日	企業等委員
浅井 敏	浅井・荒木法律事務所	平成29年3月1日～平成30年3月31日	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(~~ホームページ~~4月と10月) 広報誌等の刊行物・その他( )

URL:<http://www.ndhs.ac.jp>

(別途、以下の資料を提出)

- \* 学校関係者評価委員会の企業等委員の選任理由書(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-2
- \* 自己評価結果公開資料
- \* 学校関係者評価結果公開資料(自己評価結果との対応関係が具体的に分かる評価報告書)

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

講師会や臨床実習講師会を開催し、教育内容や学生指導について意思の疎通を図り、幅広い意見交換や情報提供を行うことにより、教育の充実を図る。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要・沿革、教育目標、年間計画、学校行事
(2) 各学科等の教育	カリキュラム
(3) 教職員	担当科目、担当学年、研修
(4) キャリア教育・実践的職業教育	接遇作法、医療事務管理士技能認定試験、臨床実習
(5) 様々な教育活動・教育環境	小・中学校におけるブラッシング指導、歯の衛生週間イベント参加、クラブ活動
(6) 学生の生活支援	個人面談、相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金(年2回分納)、本校独自の特待生制度、日本学生支援機構
(8) 学校の財務	本校の財務状況
(9) 学校評価	自己評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL:<http://www.ndhs.ac.jp>

(別途、以下の資料を提出)

- \* 情報提供している資料

事務担当責任者	フリガナ	コバヤシ ヤスコ	所属部署	学校課
	氏名	小林 泰子	役職名	教務主任
	所在地	〒852-8104 長崎市茂里町3-19		
	TEL	095-848-5002	FAX	095-845-4246
	E-mail	happy-smile@ndhs.ac.jp		

(備考)

- ・用紙の大きさは、日本工業規格A4とする(別紙様式1-2、2-1、2-2、3-1、3-2、4、5、6、7についても同じ。)

## 授業科目等の概要

(医療専門課程歯科衛生士科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			生物学	進展がめざましい生命科学について、基礎的な知識を習得し、それを通して生物、ヒトを科学的に捉え、さらに生命について深く考える態度を身につける。	1前	30	2	○			○				○
○			化学	現代科学技術の基本となるもので、物質の本態とその変化を十分に理解し、それら物質や変化が歯科の臨床にどのように利用されているか知る。	1前	30	2	○	△		○				○
○			心理学	心理学の意義や研究領域から、自分自身や他者、人間関係に興味・関心を持ち「心理学」が身近な学問であることこの理解とその知識を日常生活に活かす。	1前	30	2	○	△		○				○
○			倫理学	人間や社会組織の行為の善し悪しや正当性を評価する。特に医療倫理、生命倫理に焦点を絞り、日常生活や医療の場で、命(いのち)をどのように扱うのが適切かを考える。	1後	15	1	○	△		○				○
○			行動科学	患者さんと良好なコミュニケーションを築くために構造化連想法に基づいたヘルスカウンセリング法の基礎を身につけ、自分自身の素直な気持ちと、相手を大切に思う気持ちを持って行動できる医療人を育てる。	2後	20	1	△	○		○				○
○			歯科英語	歯科医療について必要な用語を学び、外国の歯科関係文献で、最新情報を得るためにも読解力を身につける。	1前	30	2	○	△		○				○
○			解剖学	ヒトの体の構造および機能について理解する。	1前	30	2	○			○				○
○			組織・発生学	人体を構成する細胞や組織の形態的特徴とはたらき、また組織・器官・人体が形成されてくるまでの過程(発生)について学ぶ。	1前	20	1	○			○				○
○			生理学	人間が生きていくために細胞内または生体内で行われている生命現象を機能の面から学ぶ。 人間の健康を維持するために必要な細胞ならびに器官の正常時の活動について学ぶ。	1前	20	1	○			○				○
○			生化学	生命の基本になっている細胞の構造や基本物質の代謝について学習する。	1後	15	1	○			○				○
○			口腔解剖学(含歯型彫刻)	ヒトの口腔周囲の構造(歯の形態を含む)について理解する。 石膏棒を彫刻して歯の模型を作製することで、歯の形態の立体的な理解を深める。	1後	45	3	○	△		○				○
○			口腔組織学	歯と歯周組織の発生・構造・機能について学ぶ。 主に光学顕微鏡で見た歯の発生過程と歯牙の構造およびそれを支える周囲の組織構造について学ぶ。	1後	20	1	○			○				○
○			口腔生理学	全身の生理と共通の法則に従っていること、口腔の機能がいかに営まれているか、口腔機能として「食べる・飲む」、「感じる」、「話す」、「意思表示する」、「動かす」について学ぶ。	1通	20	1	○			○				○







○	感染予防学	全ての臨床業務のベースにある感染予防について、その概念・実際の取り組み方を理解し、安全な医療を提供できる知識と能力を取得する。	2後	15	1	○	△	○	○	○	○	○	○
○	臨床実習 臨床実習	歯科衛生士業務に必要な歯科予防処置、歯科保健指導、歯科診療補助等の基本技術の学びを深め、実体験を通して専門的能力を習得する。さらに、医療従事者としての基本姿勢や倫理規範を学び、コミュニケーション能力をも高める。	23通	1058	22			○	○	○	○	○	○
○	総合歯科学	国家試験に関連した項目を中心とし、歯科全般の知識を深める。	3後	120	4	○	△	○	○	○	○	○	○
○	医療情報処理 技術	パソコンとインターネット・セキュリティの基礎知識を習得する。 正しいタッチタイピングの習得とWord・Excel・PowerPointの基礎知識・スキルを身につける。 集計表・プレゼンテーション等、仕事で使える応用力を磨く。	12通	45	3	△		○	○			○	
○	摂食機能訓練 法	摂食・嚥下障害の概要と摂食機能訓練法の基礎、リハビリテーションの意義、目的を充分理解し、臨床の場で生かせる技術と知識を習得する。	2通	30	2	○		△	○			○	
○	リハビリテ ーション概論	リハビリテーションの歴史や障害発生から医学的・社会的リハビリテーションに至るまでの内容を体系的に理解する。	2前	20	1	○		△	○			○	
○	隣接医学	全身疾患と口腔領域との関連を理解するために、歯科診療に隣接した基礎的医学知識を理解する。	3前	30	2	○			○			○	
○	看護学概論	看護の概念と基本的看護技術を学ぶことにより、歯科衛生士の担う役割と医療の中の看護の必要性を理解する。	2前	30	2	○		△	○			○	
○	介護技術	高齢者や障害者および訪問治療を行う在宅患者に対応するときの身体的・精神的特徴の理解と介助技術を習得する。	3前	30	2	△		○	○			○	
○	コミュニケー ション学	英会話・手話・接遇作法より選択し、状況に応じたコミュニケーション力を養う。	2通	30	2	△	△	○	○			○	
○	芸術	華道・茶道・美術・書道より選択し、一般教養を身につける。	1後	30	2	△		○	○	△		○	
合計				56	科目	単位時間 (125 単位)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
教務委員会の議を経て、当該学年の科目を履修した者を進級させ、卒業は、学科課程を履修した者に校長より認定する。 また、科目ごとに筆記試験または実技試験を実施し、合格基準に満たした場合を履修とする。	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	21週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。